

## 議事録 1

司会：皆さま、大変長らくお待たせいたしました。ただいまより、「2015 大宮アルディージャ サポートーズ ミーティング」を始めさせていただきます。本日のメンバーを、ご紹介させていただきます。代表取締役社長・鈴木茂。

鈴木：鈴木です。よろしくお願いいたします。

司会：取締役事業本部長・久保田剛。

久保田：よろしくお願いいたします。

司会：取締役管理本部長・東山雄二。

東山：よろしくお願いいたします。

司会：強化本部長・松本大樹。

松本：よろしくお願いいたします。

司会：育成普及本部長・岡本武行。

岡本：よろしくお願いいたします。

司会：本日、司会進行役を務めさせていただきます、事業本部の原木と申します。よろしくお願いいたします。それでは一旦、着席をさせていただきます。はじめに本日の流れを簡単にご説明させていただきます。まず社長の鈴木、強化本部長の松本、育成普及本部長の岡本より、今シーズンのクラブの方針、強化の方針、育成の方針について、ご説明させていただきます。こちらが終わりましたら一度、質疑応答の時間を設けさせていただきます。次に事業本部長の久保田、管理本部長の東山より事業全般、コンプライアンス、クラブハウス関連について、ご説明させていただきます再度、質疑応答の場を設けさせていただきます。会の最後にもミーティング全体についての質疑応答の時間をあらかじめ設けさせていただきますので、よろしくお願いいたします。今回のサポートーズ ミーティングが、皆さまとの有意義な意見交換の場となるよう、事前にいただいたご質問の数に応じて、質疑応答の時間配分を設定させていただいております。また、重ねてのご連絡になりますが、進行の妨げになるような行為があった場合には退席をお願いすることもありますので、あらかじめご了承ください。それでは、これよりミーティングに移りたいと思います。初めに代表取締役社長の鈴木より、ご挨拶と今シーズンのクラブの方針についてお話させていただきます。

鈴木：皆さま、あらためまして大宮アルディージャの鈴木と申します。2015 サポートーズ ミーティングにおいでいただき、ありがとうございます。2014 シーズンについては、皆さまに1シーズンしっかり応援していただいたにもかかわらず喜んでいただける結果が残せず、誠に申し訳ございませんでした。この場を借りてお詫びを申し上げます。今日のサポ

ーターズ ミーティングの中で、2015 シーズンの取り組み等々について、私含めて（5名）全員から話をさせていただきます。私から新体制を含めてお話しさせていただきますので、これ以降は着席して進めさせていただきます。

まず、ご質問にあった中で1点、監督交代のタイミングについてお話しさせていただきます。（昨年）8月末に監督を交代いたしました。当時、鈴木徳彦チーム統括本部長、松本強化部長、そして大熊（監督）体制を進めていった中で、チームの結果は確かに良くありませんでした。ただ鈴木徳彦さん、松本さん、監督、当然コーチを含め、みんなが1つになって何とか結果を出そうと取り組んでいました。それでもなかなか結果が出ない中、浦和レッズ戦で0-4と大敗したわけですが、その時点で大熊監督の選手に対する影響力と言いますか、指導力が限界ということ、それぞれ鈴木徳彦、松本、当然、私もですが、その時点で判断しました。（直後の）天皇杯も当然、勝負を懸けるのですが、リーグ戦まで2週間ありましたので、特に守備の再構築等を考えたときに、浦和戦後の2週間で体制の構築が、守備に対する構築ができるだろうということで、ギリギリですが、あのときに監督交代の判断をさせていただきました。その監督交代も、外部から呼びますと体制構築に時間を要することになりますので、内部昇格で当時コーチだった渋谷さんをお願いし、監督をやっていただくということになりました。それについては、ご質問等がございましたので、先に回答させていただきます。

そして新体制について。昨日は新体制発表会見を行いました。特に強化と育成を今後しっかり取り組んで強化していくために、去年まではチーム統括本部だったのですが、強化に特化しようと強化本部を設置しました。当然その任務は去年、強化部長をやっていた今回、補強・スカウト等でも結果を出してくれた松本を本部長に登用いたしました。皆さまご存じだと思いますが、松本は2000年からアルディージャで選手、スカウト担当、強化部長を経験しております。埼玉の中もサッカー協会の中も熟知し、強化部長で結果を出していることもあり、強化本部長をお願いしました。また、去年から普及育成本部長をお願いしている岡本がアカデミーのトップになります。岡本もアルディージャ結成から、もう少し言いますとアマチュア時代から25年くらい、このチームにいます。この2人が連携することで、選手育成や補強等を両輪になってやってくれると、私は信頼しております。また、昨日の新体制発表会では、新しい選手も入れてしっかり頑張るということを発表させていただきました。

クラブビジョン	2015シーズンの目標
<p><b>Ardija Vision 2020</b> <b>未来を、ともに。</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>★地域の未来 スポーツを中心とした様々な活動を通じて、地域の発展に貢献します。</li><li>★クラブの未来 地域の皆さまに信頼いただける、社会に開かれたクラブを目指します。</li><li>★チームの未来 国内トップリーグ（J1）で上位に定着し、常にタイトルを争うチームを目指します。</li></ul>	<p><b>J 2 優勝</b></p>

それから、今シーズンで5年目になります「Ardija Vision 2020 ～未来を、ともに。～」

において、昨年どのような取り組みをしたかを少し述べさせていただきます。地域の未来の面では、去年も少し議論、ご質問等ありましたが、スタジアムをどうするかがございます。「大宮東口プロジェクト 2014」という、大宮東口の再開発を検討しているプロジェクトがあり、そのプロジェクトと連携し、東洋大学や東京芸術大学等の協力を得て、東口の再開発に伴う大宮公園の再開発、その方向性等々の様々な提案が行われています。ラクーンビルの最上階に、まちラボおみやに一時展示されていたスタジアムの模型等が出ています。ただ、具体的に予算がついてはいないので、その進みは少し芽が出たかなという形で、ご理解いただきたい。それと、地域の未来はクラブの未来にもつながるのですが、初めて大宮アルディージャとしてラオス、タイ（でサッカー教室を行い）、海外、アジア展開を昨年から始めました。ゆくゆくは、アルディージャとして総合型スポーツクラブを持つと考えていますので、そういう意味でも海外での活動も昨年からスタートしたところです。

クラブの未来の面では、私たちのオフィスであると同時にトップチームの練習場であるクラブハウスを建設して、去年が2年目でした。地元の皆さまに開放しようと、去年は2,500名強の方にクラブハウスを利用させていただいております。そういう意味でも、我々も地域貢献をすることで、皆さまにクラブを支えていただけるという形に、少しずつできていると思っています。チームの未来の面では、今シーズンはJ2優勝。1年で（J1に）戻るということで、J2優勝と考えています。トップチームは、この目標を立てております。アカデミーも非常に頑張っていて、ユースがプレミアリーグに上がり、今シーズンは期待できると思います。それプラス、ジュニアは4年前からトルコとベルギー、Jr.ユースがオランダと昨年からスペイン、実はジュニアとJr.ユースがここ4年で海外遠征を多く行っています。ユース年代は試合が多くて遠征できなかったのですが、去年からオランダ遠征を行って強化に努めています。ゆくゆくは、そういう選手たちがチームの中心になってくれるのではと思っていますので、この取り組みも継続していきたいと思っています。少し短い説明になりましたが、社長としてのこれまでの取り組み、そして今年の目標等について説明させていただきました。今日お集まりの皆さまを含めて、3月8日から11月まで続くシーズンを応援していただき、結果を出していきたいと思っています。ぜひ、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

司会：続きまして、強化本部長の松本大樹より、今シーズンの強化方針をご説明させていただきます。

松本：皆さま、こんにちは。今年、強化本部・本部長を担当します松本です。よろしくお願いたします。今日はお忙しい中サポーターズ ミーティングにお越しいただき、ありがとうございます。この会がお互いに有意義な会になればと思っています。昨年、10年間守って来たJ1から降格しました。社長からも話がありましたが、私自身2000年から選手として、2004年は1試合しか出ていなくて貢献できなかったのですが、（J1昇格の）喜びを味わった一人です。今年もう一度、1年でJ2優勝して必ずJ1、元の場所に戻るということで新たなスタートを切りたいと思います。これから話をさせていただきますが、大宮のサッカー、スタイルというところと昨シーズンの振り返り、今シーズンの目標、そして今後のビジョン、『Ardija Vision 2020 ～未来を、ともに。～』というビジョンの話をさせていただきます。

まず、2014シーズンの振り返りをお話しさせていただきます。あくまでも数字ですが、勝点35、9勝8分17敗。得失点差がマイナス16、得点44。J1リーグの戦いにおいて（ク

ラブ) 歴代2位の得点数ではありましたが、失点60はワーストだったということで、説明を攻撃と守備で分けさせていただきました。リーグ戦は得点がリーグ9位、失点がリーグ17位で、降格は致し方ない数字が出ています。シュート数298本はリーグ17位、打たれた数である被シュートが420本でリーグ16位。1試合あたりの平均シュート数が約9本、被シュートが12本という昨シーズンの振り返りを、数字で出しました。

先ほど社長からもありましたが、8月30日の浦和戦で0-4と完敗した後に監督交代を決断しました。どうかとは思ったのですが、(資料では)前監督と渋谷監督の比較を出させてもらいました。ご覧のとおり、渋谷監督になって組織的な守備の立て直しができるようになっております。渋谷監督続投の経緯も話をさせていただきますが、今シーズンにつながる組織的サッカー、堅守多攻というところで、守備もしっかりできて、いろんなバリエーションからシュートチャンスをつくれると、続投をお願いしたという経緯です。



- ❖ 前監督時、守備の不安定で勝点を奪取できなかったことが要因
- ❖ 監督交代後、守備の建て直しにより失点は減少したが、序盤の低迷を挽回できずに降格

今お話したように、前監督のときは非常に失点が多かった。チームとしてどこでボールを奪うかというのが守備で、もちろん相手があつてのことですが、分かりやすく言うと、相手がボールを持ったときに誰が最初にボールに行くのかというところで、次の中盤やディフェンスラインがなかなか連動した守備ができなかった。そのため相手に攻められるので、攻撃もなかなか良い形でできなかったと分析しました。それが監督交代後は、数字でも出ていたように、連動した守備から連動した攻撃と、守備の立て直しができるのではないかと考えています。渋谷監督自身、非常に責任を感じている中で監督を引き受けてもらったということもあったのですが、攻撃については約3か月間の短い期間でやってもらったので、'個'に頼るようなこともありました。しかし、今シーズンは初めから監督をし

でもらえるため、攻撃の部分も期待しています。

2015シーズンに向けて

目標

**J2優勝**  
勝点86点 (25勝11分6敗)

過去3シーズンの自動昇格6チームの傾向

- ✦ 勝点： 勝点86点以上 (6チームの平均勝点)
- ✦ 攻撃： 1試合あたり平均1.8点以上の総得点76点
- ✦ 守備： 1試合あたり平均0.9点以下の総失点38点

2015シーズンに向けて

J2降格後、1年でJ1復帰したチーム

柏 (2010降格、2011復帰・優勝)	G大阪 (2013降格、2014復帰・優勝)
F C東京 (2011降格、2012復帰・10位)	神戸 (2013降格、2014復帰・10位)
甲府 (2012降格、2013復帰・15位)	湘南 (2014降格、2015復帰・?位)

ポイント1：降格時に主力選手の残留  
ポイント2：守備力の安定 (試合に負けないこと)  
ポイント3：G大阪を除き降格時の監督が指揮  
ポイント4：長丁場のJ2でチーム戦術が深化

2015シーズンに向けて

ポイント1：降格時に主力選手の残留  
▶ ムルジャ、家長、泉澤、菊地、今井、金澤、横山等の残留

ポイント2：守備力の安定 (試合に負けないこと)  
▶ J1で1試合平均0.9点の失点改善をした渋谷監督

ポイント3：G大阪を除き降格時の監督が指揮  
▶ 監督交代後に成績を上げた渋谷監督の続投 (戦術がブレない)

ポイント4：長丁場のJ2でチーム戦術が深化  
▶ 家長選手のトップ下 (FW) 起用  
▶ GKの補強  
▶ リーダーシップのある選手の補強

J1の10年を振り返って

- 監督交代が多く、サッカースタイル (「組織」 or 「個人」) が定まらない
- 強化責任者の交代により、大幅な選手変更を余儀なくされた
- J1昇格後、数年は有望な新人選手が獲得できなかった
- 毎年、残留争いに巻き込まれたため、上位クラブのレギュラークラスの選手獲得が困難であった
- 高木練習場の完成まで、練習環境・クラブハウスのハードがネックとなり選手獲得が困難であった

先程、社長からもありましたが、今シーズンの目標はJ2優勝。優勝すれば自動昇格できます。ここ数年のJ2からJ1に上がったチームに関し、勝点、攻撃、守備という数字をスライドで出させてもらいます。湘南は昨シーズン勝点100を越えていました。また、少し細かなところですが、J2に降格した各チームはスライドのような形になっています。この中で、4つのポイントを挙げました。降格しても1年でJ1に上がったチームは、まず主力選手が残留しているところと、守備力の安定。「2点取られても3点取ればいいじゃないか」という考えもあるのですが、やっぱり数字から見ても守備はしっかりやらないといけません。点を入れられなければ負けない、勝点1は奪えるため、しっかり守備はやっていこうとポイントに挙げさせていただきました。ガンバ大阪以外はほぼ監督が続投しています。

スライドでは詳細を出しましたが、主力選手の残留というポイントで、昨年の上場率を出させてもらいました。結果、高橋祥平選手やズラタン選手と移籍を決めた選手もいますが、多くの選手が残ってくれました。また、守備の安定というポイントでは、先程も数字を出したように、非常に失点の少ないチームが (J1に) 上がっていますので、渋谷監督になってから本当に組織的な守備で失点も減っている中で、今シーズンも期待できると続投をお願いしています。足りない部分ではFW。ズラタン選手が移籍しましたが、例えば昨シーズンも少し取り入れた4-2-3-1での家長選手の使い方なども、今年はポイントになってくるのではないかと考えております。それから、GKの補強では昨日の会見でもお話しさせていただきましたが、浦和レッズから加藤選手、F C東京から塩田選手を獲得する

ことができました。2人とも前所属のチームで非常に悔しい思いをしています。大宮で何とか頑張ってもらいたいという思いで、(スライドに)組み込ませていただきました。残ってくれた選手の中でもリーダー的な存在もいますが、リーダーシップのある選手というポイントで今回オファーをさせてもらった中で、各クラブで選手会長をしていた加藤選手、塩田選手、播戸選手を獲得することができ、いろんな意味でもっと良くなるのではないかと考えています。

この10年を振り返るにあたり、私なりに考えました。「この話をしないと」という思いがあり、スライドに出させてもらいました。それはサッカースタイルという面で、育成の方は99年のJ2参入から堅守多攻、組織的なサッカーを継続しております。ただ、トップチームに関しては強化責任者の交代、その時に監督も交代してしまうため、組織的なサッカーをしたいというところから、少しずつ個に頼ることが多かったのではないかと分析しました。個があっても組織があれば一番いいですが、個に頼ったサッカーが多かったのではないかと出させてもらいました。J1昇格後から数年は優秀な選手が獲得できなかったところもあり、クラブハウス等のハード面も非常に充実してきて、これからというところで降格してしまいましたが、このあたりもしっかりと肝に銘じてやっていきたいと出させてもらいました。毎年レギュラークラスの選手を(獲得)リストで挙げながらも、プロの選手なので、契約条件、タイミング、本人の意思という理由で、なかなか補強が進まなかった現実もありました。何度もお話してきたように、組織的・堅守多攻というブレないサッカーを。私自身、選手から今年で16年目になり、渋谷監督はメディアなどでも話をしていますが、NTT関東時代からの方で私以上にチームに対する思いは強いです。私も選手で5年やらせてもらい、何とか、この大宮をJ1でACLを狙えるような、優勝できるようなチームにしていきたいという思いで、この『大宮スタイル』を渋谷監督と一緒にしっかりやりたいと、今シーズンも続投で渋谷監督にお願いしました。

選手の話を中心にしてきましたが、指導者もしっかりと育てます。アカデミーも含め、トップチームも指導者をしっかり育てながら、優秀な選手を見つけて育てるということを、しっかりとクラブとして考えていきたいと思っています。それから、昨シーズンで言えば今井選手、金澤選手、シーズン途中から泉澤選手が出始めましたが、試合に出ている選手の多くは移籍で加入し、どうしても移籍・獲得の体質があります。今年の選手は(そういった)バランスも考えてフィールド24、GK4の28名ですが、ユースから7名、高卒・大卒で8名と、半分の15名の選手が生え抜きや新卒の選手にしています。将来的にはこのあたりも見据えながら、しっかりバランスの取れたクラブにしていきたいと考えています。

今後の中期ビジョン

未来を、  
ともに。

**「組織的・堅守多攻」の  
ブレない“大宮スタイル”を確立し、  
J1昇格を目指す**

大宮スタイル：オレンジ代表のサッカー

ビジョン

未来を、  
ともに。

**指導者を育て、  
選手を見つけ、育てる。**  
▼  
**移籍獲得体質から  
育成+移籍のバランス型へ**

2015～2017年

2015

J1昇格

2016年以降へ繋がる安定した戦いスタイルの構築

2016～2017 J1中位以上（7～12位）

2018～2020年

上位に定着、ACL出場権争い  
J1 中・上位以上（9位以内）

## ①指導者育成

- ・トップチーム指導者と育成指導者のミーティングへの参加や合宿へ帯同を実施、考え方や選手選考方法を共有する
- ・コーチ等への指導者ライセンスの計画的な取得（指導者のスキルアップ）

## ②選手育成

- ・U-23でチームを編成し、ユース選手との合同トレーニングや試合を実施し、全体のスキルアップを目指す
- ・レンタル移籍により、公式戦の実戦経験を積ませる

## ③選手の発掘（新卒選手、育成選手を主力メンバーに据える）

- ・スカウト活動の強化
- ・東洋大学との連携強化

ビジョンの話をさせていただきます。冒頭にも話しましたが、今年はJ2リーグという非常に厳しい戦いになると思っております。必ずJ1に昇格するためにJ2で優勝して、来年は元の場所に戻るというところを、しっかりスタイルやベースを作りながら、ただ上がるのではなくて上がって2016年、17年にJ1でも安定した戦いができるチームを作りたいと思っています。そして、クラブビジョンにもある2020年に常にJ1で上位定着、ACL出場権を狙えるようなチームにしていきたいと考えております。

今までもしっかりしてきているのですが、育成との連携面でプランを考えました。先程もお話しましたが、指導者の育成です。アカデミーでも（元）選手が指導者として頑張ってくれています。皆さん私よりも年上で先輩ですが、斉藤雅人や奥野誠一郎と、選手を辞めてから指導者として一生懸命、勉強してくれています。その先輩たちがトップでも活躍できるようにしっかりと育成する。良い選手でも良い指導者になれるかは、なかなか難しいところもあるのですが、選手としても指導者としても素晴らしい人材を、しっかり育成していくことを考えています。

選手育成ではU-23と書かせてもらいましたが、ここはアカデミーの選手も含めて一緒に練習すれば、お互いに良い刺激になると考えています。どうしてもフィジカルの違いなどはありますが、たまに行う（トップと）ユースとの練習試合では、お互いに刺激になっているので、今年はずっと多くやっていきたいと考えています。それから、期限付き移籍と書かせてもらいましたが、昨年からJ3にU-22選抜ができました。大宮からも大山選手、川田選手を呼んでもらいました。そういうチームなどで少しでも公式戦、実戦経験を積みれば、外のチームで実績を積ませることも考えた方が良いのではと、書かせてもらいました。

選手の発掘というところでは、アカデミーも含め、しっかりとスカウト活動。私自身7年間スカウトをさせてもらいました。浦和レッズに行ってしまった青木選手をはじめ、今井選手や泉澤選手と、少しずつハード面も整ってきて、良い選手が来てくれるようになっていきます。そのあたりもしっかりと見据えながら取り組んでいきたいと考えております。また、東洋大学とは2007年から連携を取り、今年で9年目になります。うちのユースから東洋大学に行っている選手もいます。東洋大学との連携の強化も、しっかり考えていきたいと思っております。以上になりますが、今後しっかりと育成との連携も考えながら、2020年に向かって頑張っていきたいと思っております。簡単ですが、私からは以上です。

司会：続きまして、育成普及本部長の岡本より、今シーズンの育成の方針について、ご説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

岡本：皆さま、こんにちは。育成普及本部長の岡本です。皆さまにはトップチームだけではなく、育成もたくさんの方に応援していただきまして、誠にありがとうございます。はじめに、この場を借りてお礼を申し上げます。私からは育成について話をさせていただきます。まず、アカデミーが目指すものは、チームとしては感動的なフットボール、組織的で堅守多攻のサッカーを目指していきます。近年、少しずつですが実力も付いてきて、だいぶサッカーが整理されてきているのが現実です。次に選手としては、大宮から世界に羽ばたく選手を育成したいと思っています。やはり、まずはしっかりとトップチームで活躍し、次に世界で活躍できる選手を育てていければと思っています。それが一人ではなくて毎年毎年、出てくるようなチームを作れればと思っています。3つ目として、サッカー選手として社会のリーダーたる人材を育成できればと、やはり社会人として社会や地域に貢献できるような選手を育てていければと思っています。この3つが、私たちが目指すものです。



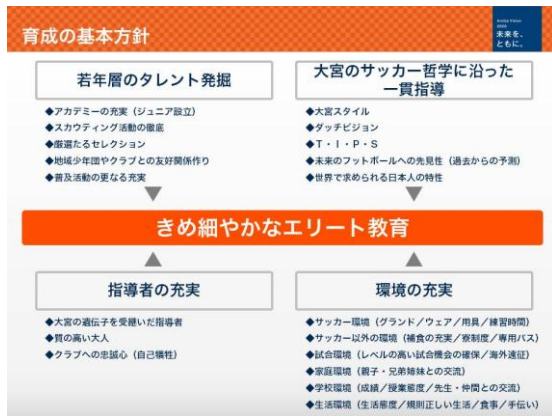
育成の基本方針としては、まずオンザピッチではパーフェクトスキルの獲得を目指しています。やはり現代サッカーは、スペースがなくなり時間もなくなっています。そういう中で攻撃だけ、守備だけの選手というのは、なかなか活躍することができません。そういった中で攻守においてハードワークができて、それプラス、ストロング・ポイントを持たせることが私たちの仕事だと思っています。そしてウイナーズ・メンタリティーということで、どんな試合でも勝つことを目的にする。個人としても競争があり、チームとしても競争があります。そして、チームの中で、日本の中でという競争もありますが、世界の選手と自分がどれくらいできるかというのも競争になると思います。そういった中で、自分を高めていくことを目指していければと思います。オフザピッチでは人間教育です。先程も話をいたしました。しっかり常識ある人間性や社会性を育成していければと思っています。そして、地域への誇りと責任感の醸成を考えております。

それを実現するためには、この4つが重要であると考えております。1つはタレントの発掘。そして、もう1つが指導者の充実ということでもあります。先程、松本から話がありましたが、奥野や斉藤という選手でも活躍したコーチがいますので、そういったスタッフをしっかりと育成し、将来はトップで活躍できるような指導者にしていければ、そして子どもたちに対してもしっかりと一貫した指導をしていければと思っています。それには「大



「宮スタイル」に沿った逆算しての練習が必要になると思っています。そして最後に環境の充実があります。これはサッカーだけではなく、例えば食事や生活といったサッカー以外の環境も充実していければと思っています。あとは試合環境というところで、先ほど社長からも（海外遠征の話が）ありましたが、国内のレベルの高いところで公式戦を行うとともに、海外に出て自分のレベルがどれくらいにあるのかを把握することも大事ではないかと思っています。そのほかに家庭、学校、生活などを充実させて、サッカーに集中できる環境を作っていければと思っています。この4つができて初めて、良い選手が出てくるのではと思っています。

具体的な施策では、海外遠征に取り組んでおります。最初は Jr.ユースのみの活動でしたが、近年結果が出て来たということで、海外の強豪チームから、ぜひ大宮とやりたいと招待されてきています。昨年からはジュニアがベルギー、Jr.ユースがオランダとスペイン、ユースがオランダに遠征しております。今年も何か国かから、ぜひ大宮に来てほしいとお誘いを受けている状況です。ぜひ、そういう場を活用して、選手たちに今自分がどういうレベルにいるか、世界の選手がどれだけのレベルであるかを感じてもらえればと思っています。そして環境の充実では、今まで専有グラウンドはありませんでしたが、2013年から志木グラウンドが専有になり、今は芝2面と人工芝1面という素晴らしい環境になってきました。そして、(練習が)終わったあとの栄養です。やはりトレーニングだけで体を作ることはできません。トレーニング後の休養や食事が大事になってきます。そこで、食事の提供や志木寮の整備をし、今年からはほとんどのユース選手が志木寮に入ります。そういった中で24時間しっかりマネジメントして、心技体を鍛えてほしいと思っています。



### アカデミーの昇格状況

年度	Jrユース	ユース	TOP
2013年	4名(15名)	12名(18名)	川田選手
2014年	5名(14名)	10名(18名)	大山選手
2015年	10名(13名)	11名(16名)	高山、小島選手

育成では、セレクションなどの選手評価として、「TIPS」という形で選手を評価させてもらっています。これは、入団してからも1年に1回くらい各監督が数値化して本人に話をし、弱点をもっと伸ばしていくようななどと伝えたり、ストロングポイントも伝えたりという指導をしています。これらを全部高めることで、世界でも戦える選手になると思っています。「TIPS」の「T」は技術、テクニックです。「I」のインテリジェンスは賢さや戦術的な部分が大きくなります。「P」のパーソナリティーは、個人のマインドやメンタリティー。そして、最後の「S」がスピードです。これは身体的なスピードだけではなく、判断のスピードやボールのスピードも入ってきます。この4つを大きな項目にして評価表を作っています。各監督は、この評価表に基づいて、総合的に何点であると数値化しております。これを基に選手たちに話をし、今後の目標や伸ばしていく部分を話している状況です。かなり細かいところまで数値化して、サッカーだけではなく、学校の生活などの生活面についても話をしているのが現状です。

私がユース監督だったここ数年は、Jr.ユースからユースに上がる選手は少なかったですが、最近ユースのほとんどの選手がJr.ユース出身者になっています。そういった中で、Jr.ユースとユースでの6年間の一環教育が非常にしやすい環境になっている現状です。また、ジュニアからも今年は10選手が(Jr.ユースに)上がってきますので、この選手たちがユースを卒業する時に良い選手になるよう鍛えられればと思っています。また、今年は2名の選手がトップチームに上がることができました。やはりユースとしては松本強化本部長と協力し、やはり毎年毎年、将来チームの中心となるような選手を輩出できるような体制ができればと考えております。以上で育成の話が終わります。ありがとうございました。